

【中堅】上原（富士ゼロックス・本社）④— 梅木（JR東日本・本社）

試合開始から積極的に技を仕掛けていった上原。試合が中断した直後の再開の立合、剣先でスッと上を取った上原がそこから竹刀を振り下ろせば、これが見事な一本となった（写真）。上原が貴重な追加点を挙げた

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス（本社）	⑤	東郷	岡北	上原	北川	岩川	2
JR東日本（本社）		大山	高山	梅木	広瀬	川上	0

決勝



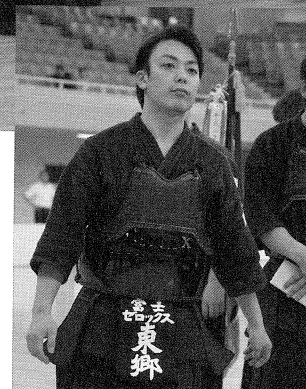
先鋒の東郷がドウに切り込み一本（写真）。富士ゼロックスが先の良い白星スタートを切った

両チームの対戦は先鋒戦から動いた。富士ゼロックス東郷（23歳）とJR東日本大山（23歳）の新戦力同士の戦いは、機動力に勝る東郷が大山の手元の浮きをドウに切って先勝を挙げる。

次鋒戦でも富士ゼロックスはJR東日本本反撃を許すことなく、その後の中堅戦で上原（34歳）が勝ち星を追加。結果的には踏んだ場数の差が出たか、JR東日本に一本も許さぬ完封勝利で富士ゼロックスの3年ぶり7回目の優勝が決まった。

喜びに沸く富士ゼロックス陣営。チームを率いた三木勤監督は笑顔で今大会を振りかえる。

「昨年は最後の最後で一本差で負けてしまいました。新人と中堅選手、そしてベテランというチーム構成なのですが、ベテランと中堅選手がうまくまとめてくれて、新人選手はガンガン行こうと。チーム



最優秀選手賞
東郷知大（富士ゼロックス・本社）

毎年参加チームが増加傾向にあるこの関東実業団大会。昨年は226チームのエントリーがあつたが、今回は235チームと、昨年を上回るそれがあつた。日々、日本経済を支える多くの企業人がこの日はその手に竹刀を握り、武の殿堂・日本武道館を大きく沸かせた。

大会の歴史を振り返れば、一昨年、昨

前回2位の 富士ゼロックス（本社） 7度目の栄冠！ 一般の部

優勝 富士ゼロックス（本社）

東郷知大（23歳）、岡北真輔（37歳）、上原祐二（34歳）、住崎誠洋（36歳）、岩川力（27歳）、北川清太（23歳）。監督＝三木勤

第58回 関東実業団剣道大会

平成28年6月5日（日）
日本武道館
主催◆関東実業団剣道連盟
撮影◆窪田正仁



決勝戦終了後、仲間たちからの祝福を受ける富士ゼロックス（本社）のメンバーたち

年と三井住友海上（本店）が連覇を達成。旧・住友海上火災時代には大会最高記録となる四連覇（平成5年・第35回大会〜平成8年・第38回大会）をマークしている同社だけに、その記録更新もまた戦いのモチベーションのひとつとなっていることだろう。

5回戦のJR東日本リテールネット（本社）戦は代表にもつれる接戦ながらも、三井住友海上はここを乗り越えベスト8に進出。三連覇に向けてのラストスパイクが始まるかと思いきや、準々決勝の三井住友銀行（本店）戦では次鋒、中堅を奪われてしまう苦しい試合を強いられる。勝負どころの副将戦も引き分けに終わり、この時点で三井住友海上の三連覇の夢は潰えた。前回まで過去5大会連続で決勝戦へとコマを進めていた三井住友海上だったが、残念ながらその記録も今回で途絶えることとなった。

大会の頂点に立ったのは、実業団剣道界の強豪のひとつ、富士ゼロックス（本社）だった。この関東大会の最多優勝記録は三井住友海上の持つ10回だが、それに次ぐ6回の優勝を誇るのが富士ゼロックスである。昨年の決勝戦で三井住友海上に敗れている富士ゼロックスは、これで2年連続の進出となった。

優勝を賭けて竹刀を交えた相手はJR東日本（本社）であった。過去、第46回大会（平成16年）では3位入賞の経験があるJR東日本が、当時の記録からステツプアップの初の決勝進出を遂げた。



日本通運(本社) 2代 2日通商事(東京)
代表 谷口 賀川

▲大将戦の途中で日通商事の丸山が負傷、勝負は代表戦へと持ち込まれることとなった。日本通運は大将谷口、日通商事は副将の賀川を送り出す。試合開始からすぐにひきトウを狙った賀川だった。それをすばやく追った谷口のメンが決まった(写真)



NTT 10 伊田テクノス(本社)
次鋒 兵藤 ドー 奥島

▲埼玉県代表として全日本選手権大会への出場経験がある奥島が、ツキを攻めてからのコテで先制。しかし二日目開始と同時に兵藤が奥島のメンを下ウに返して一本(写真は攻防)。その後コテを追った兵藤。NTTがこの勝で伊田テクノスを下した



2位 JR東日本(本社)

大山達彦(23歳)、高山駿介(25歳)、梅木健次(30歳)、広瀬圭介(30歳)、川上秀洋(32歳)、大井洋(30歳)。監督=木村泰雄



3位 日本通運(本社)

菅原壮一郎(23歳)、三浦和也(22歳)、中石吉郎(33歳)、柴田優貴(25歳)、谷口賢人(25歳)、赤澤智希(22歳)。監督=野村隆行



3位 三井住友銀行(本店)

山田貢乃介(30歳)、平田圭(25歳)、軸原和久(26歳)、中村一誠(30歳)、嘉山隼(31歳)、近藤二郎(33歳)。監督=梶山和徳



三井住友海上(本店) 0代 0 JR東日本リテールネット(本社)
代表 鈴木 メー 大高

▲先鋒から大将まで引き分けに終わり、代表戦へともつれた代表に立つのは中堅同士。大高の勢いある攻めが目立つが、鈴木は堂々たる構えで落ち着いて対応。剣先を低めに据えた鈴木が細かく鋭く間合を詰めてメン写真。これが大高の居着きをとらえた

